

報告者： 大塚智紀 （ 静岡県立焼津中央高等学校 ）

■目的

指導力の向上

■報告対象者：

コーチングスクール及び育成に携わる指導者

■流れおよび全体像：

5泊6日×3回（前期・中期・後期）

指導対象はプロ以外のチーム、プレーヤーと考へ、監督の考へるチームコンセプトをチーム、プレーヤーに映していくことを求められた。

ゲームは、11vs11

■課題の発見と分析

○自分（監督）の求めるもの（コンセプト）を明確に示すこと

⇒そのために具体的に選手にどのようなプレーをさせたいのか提示する

⇒そのプレーに対するジャッジをする（良い：褒める/悪い：要修正）

○オーガナイズの重要性（クラリティとリアリティのバランス）

⇒テーマに合ったオーガナイズ（スペース・場所・人数・条件等）

⇒反復（W-UP、TR1）＊話が長くならない、あまり戦術的に深入りしない

○観察力の重要性

⇒ミス_を放置しないためにも、ミスがいつ起こったか（現象）、ミスがなぜ起こったか（原因）

オフを観ることの習慣（立ち位置）・・・オフを改善することによりオンで優位になれる

■A級指導実践テーマ

①高い位置からの守備

②ビルドアップの改善（高い位置からの守備に対して）

③中盤でボールを奪う守備

④中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善

⑤リトリートした守備の改善

⑥リトリートした守備に対する攻撃の改善

⑦カウンター攻撃の改善（自陣に引き込んでから）

□提言

○指導実践こそ指導力を高める

⇒勉強をしたら、テストを受けろ！